

地域・家庭支援・保護者とのかかわり

(研修俯瞰図 F 分野)

主題設定の理由

幼児の生活は、家庭、地域社会、幼稚園と連続的に営まれている。幼児の家庭や地域社会での生活経験が、幼稚園という場を通して保育者や他の幼児とのかかわりを深めることで豊かになり、それがさらに生活に広がりを与えるという循環により、幼児の望ましい発達が図られていく。

しかし、地域社会や家庭の姿の変貌は、幼児の育ちにさまざまな影響を及ぼしている。たとえば、産業構造の変化により子どもが目にすることから働く人が減り、幼児がモデルとする大人の姿が地域社会から失われつつある。また、家庭においても、核家族化がすすむ等により、本来家庭の中で家族が営んでいた家事労働を中心とした家庭の機能が外在化され、幼児は家庭の中で学ぶべき創造する力、工夫する力、我慢する力、協力する力などを育てることが難しくなりつつある。

こうした背景を考えた時、幼稚園は地域の実態や保護者および地域の人々の要請などを踏まえ、地域における「幼児期の教育のセンター」としての役割を担い、積極的に幼児の育ちに対する支援をしていく必要がある。たとえば、子育て相談を園児の保護者のみならず地域に住む乳幼児を育てている保護者にも門戸を開くこと、子育てについての情報を発信すること、保護者同士や地域住民同士の交流の機会を設定することなど、さまざまな活動を通して幼児の健やかな成長をささえていくことが大切である。

さらに、「子どもの発達」を長期的視点でとらえ、幼児期から児童期への発達と学びの連続性を理解し、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のために、小学校との情報交換を積極的に行い、保育者と小学校の教師が教育内容について相互に理解することにより、いかにして子どもの生きる力をはぐくむかを考えていくことも重要である。

以上のように、幼稚園がなすべきことは、保育をすることはもちろんであるが、地域支援・家庭支援のための活動をコーディネートすることも大切な仕事となってきた。これは園の設置者や園長のみならず、保育者すべてが地域支援・家庭支援の意識をもつことも大切なことと考えられる。さらに、保護者への対応の仕方も日々の活動において重視されなければならない。保護者は保育者の幼児へのかかわりの仕方を間近かに見ることにより幼児へのかかわり方を学ぶことが多い。また、保育者が気付くその幼児の良さや成長の姿を伝えることで子育てへの勇気を与えることもできる。保護者

とのこうしたかかわりを通して、幼児の姿への保護者の理解は深められる。

幼稚園は、さまざまな機会にさまざまな手立てをもって、地域や家庭との連携を深め、保護者とのかかわりを深め、幼児の健やかな育ちの支援に配慮することが大切である。

【研究の手がかり】

幼児が地域や地域の人々からどのようなことを学ぶことができるか考え、その活用する方法について検討する。

幼稚園の姿を地域に情報発信すること、および幼稚園の教育資源を地域に生かすことにより、地域との交流を図るにはどのような手立てがあるか考える。

家庭と幼稚園のつながりをよくし、共感しあえる保育者と保護者との関係づくりをするためには、どのような方法があるか考える。

子どもは幼児期を経て児童期へと育っていく。保育者と小学校の教師がともに幼児期から児童期への発達の流れを理解するためにはどのような取り組みが必要か考える。

保育者と小学校の教師がそれぞれの校種において特有に用いられる用語を理解するとともに、相互の教育観や子ども観を理解するにはどのような取り組みが必要か考える。

(分科会等テーマ群)

共感し合える保育者と保護者との関係づくり

幼小の連携と幼稚園教育の在り方

家庭支援の在り方・保護者との連携の在り方

地域とのかかわりを保育に生かす

幼稚園における地域の子育ての支援の在り方

各地区独自の課題